



JR発足40年を見据え、

連帯する仲間と地域と共に！

第9回定期大会開催！

大会宣言(案)

私たち日本輸送サービス労働組合連合会は、6月28日赤羽会館において「第9回定期大会」を開催した。結成以降、広範につくり出した社会連帯と積み上げた運動成果を通じて、JTSU運動と地域共生社会を次世代につなぐための方針を満場一致で確認した。

2025年9月30日、東京高裁は『ジェイアールバス関東不当労働行為事件』について「東京地裁判決と中央労働委員会の命令の取り消し、控訴人の救済申立を認める」判決を下し「不当労働行為の主体は使用者であり、労働委員会の裁量権は救済利益を否定する方向には解釈できない」と断じた。

また、2026年3月18日、東京都労働委員会は『JR東日本八王子支社組合員差別事件』に対して、不当労働行為を認定し「組合の運営に干渉し組合を弱体化させる行為であり、会社による組合の運営に対する支配介入に当たる」と判断を下した。長きにわたり、仲間とともにたたかい続けた成果が歴史的な勝利判決に結実した。

私たちは、安全な職場と健全な企業経営を目指して、社会に広く発信するために「JR東日本グループで繰り返される不当労働行為やハラスメントを明らかにする」記者会見を厚生労働省記者クラブで開催してきた。未だ多くの事案が係争中であり、JTSUの結成意義である「あったことをなかったことにはできない」この想いを胸に、あらゆる差別を許さずたたかい抜こう。

2026 JTSU春闘は「闘争戦略会議」を開催し、加盟単組間で情報共有を行いながら、一体感のあるたたかいをつくり出してきた。ジェイアールバス関東労組は、昨年を上回る85%の賛成によってストライキ権を確立し、組合員の組織力を背景に昨年を上回る賃上げと全組合員一律定額ペアを勝ち取った。一方、輸送サービス労組においては、回答指定日前の低額回答や人事賃金制度の改訂によるさらなる格差拡大など、社員を分断し軽視する姿勢が明確となった。私たちは、労働三権を活用し、賃金本質論に則り「輸送サービス業の賃金はどうか」継続した議論と取り組みをつくり出していく。

「地域共生フォーラム」では、36路線72区間の現地踏査した成果に踏まえ、これまで積み重ねた地域共生の取り組みを通じた未来展望を確認した。そして、各地で始まっているワンマン施策は、業務を担う現場の組合員のみならず、利用者からも多くの不安の声が上がっている。これらの課題を「地域共生セミナー」を通じて、地域の方々と広く問題を共有し自分たちの問題として考え、ワンマン配布行動の取り組みは広がりを見せている。公共交通機関として、あるべき輸送サービスのかたちの実現に向けて、職場から地域の方々との社会連帯で取り組みを強化していこう。

SDGsの目標期限が2030年に迫っている中、様々な社会問題の解決は未だ道半ばである。地球沸騰化や福島第一原発事故による環境問題は、現場で働く労働者にとって直結する問題である。中野電車区で多くの乗務員が疾病した「中電病」は、職場活動を通じたたたかいにより、職場環境の改善が勝ち取れたことは大きな成果である。この間継続している「グリーンジョブ研修フクシマ」はJRメカトロサービス労組独自の研修を開催するなど、さらなる広がりをつくり出している。地球環境の危機から目を背けずに、職場活動の強化・確立と地域共生運動の両輪で運動を展開しよう。

昨年は戦後80年の節目であった。私たちは沖縄、広島、長崎の各地での平和研修で、現地に立つことにより、戦争の悲惨さと今現在の平和運動の在り方を学んできた。そして、いまを生きる私たち一人ひとりが、戦争体験者から託されたバトンを受け継ぎ「新しい戦前にさせないこと」「平和な未来を次の世代につなぐ」ことを『戦後80年平和・未来フォーラム』で考えてきた。ところが、世界を見れば未だ各地で広がる戦火が鎮まる気配は見えない。高市政権は、防衛装備移転三原則と運用指針を改正し、戦争のできる国へと法整備を進め憲法改正を見据えている。私たちは「平和ポールデウォーク」など、ポールウォークを通じた地域と平和を学ぶ広範な連帯をつくり出してきた。誰もが安心して暮らせる平和な社会の実現に向け、平和社会連帯活動を展開し行動しよう。

2027年、JR発足から40年を迎える。私たちは、JTSU結成の原点に立ち返り、未来を見据え、全ての連帯する仲間と地域をつなぎ、JTSU運動を力強く前進させ、職場活動を基礎に組織強化・拡大を推し進めよう！

以上、宣言する。

2026年6月28日
日本輸送サービス労働組合連合会
第9回定期大会

結成の原点に立ち返り、未来を見据え、
全ての連帯する仲間と地域を“つなぎ”JTSU運動をさらに力強く前進しよう！

大会宣言を満場一致で採択！